2016 年 11 月

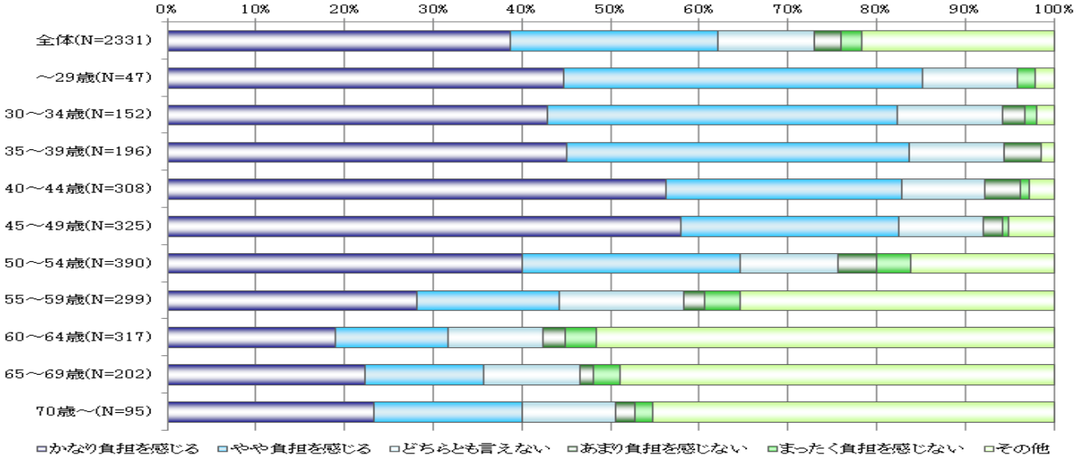
「教育費や奨学金制度に関するアンケート」（中間集約・速報版）結果の特徴

日本生活協同組合連合会・総合運営本部・政策企画部

１．20～40 歳代の 8 割以上が、今後の子どもの教育費に負担感を感じている

子どもの教育費用の負担について、「今後の負担感」を年代別に聞いたところ、49 歳以下のすべての年代で「かなり負担を感じる」「やや負担を感じる」が合わせて 80%を超えた。今後の教育費負担に対する不安が大きいことがわかった。

Ｑ１６：今後の教育費用の負担感（年代別）



２．大学進学費用や奨学金をめぐる実情を、30～44 歳の「子育て世代」が一番知らない

大学進学費用や奨学金をめぐる実情について、「知っている」か「知らない」かを年代別に聞いたところ、多くの項目で、「30～34 歳」「35～39 歳」「40～44 歳」で「知らない」と答えた割合が高くなった。特に、「35～39 歳」において「知らない」と答えた割合が高くなっている。この年代は、就学前～中学生の子どもを育てていると考えられる世代であるが、その年代の回答者が、奨学金をめぐる実情について一番知らない結果になった。

Ｑ１１：奨学金に関連した情報について、「知らない」と答えた割合（年代別）

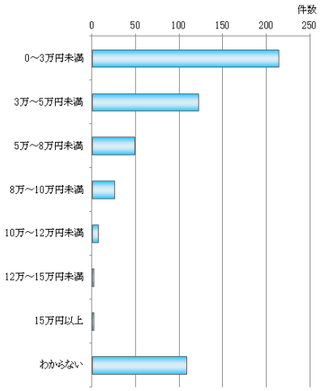
	～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
A 先進諸国の中で、大学の学費が高額で、かつ公的な給付型奨学金（返済する必要がない奨学金）制度がないのは日本だけである	52.6%	62.6%	66.8%	59.6%	57.8%	54.3%	51.6%	56.9%	49.6%	45.7%
B 現在、大学生の約半数が奨学金を利用している	26.3%	54.6%	65.9%	56.3%	41.1%	34.9%	39.4%	45.6%	55.8%	47.2%
C 奨学金の返済を理由とし、結婚や出産をためらう若者も少なくない	22.8%	30.1%	42.2%	35.0%	29.0%	25.2%	27.7%	29.1%	36.2%	38.6%
D 奨学金が返済できない場合、親や親類に返済義務が及ぶことがある	33.3%	39.9%	38.9%	40.4%	32.9%	28.4%	31.2%	35.6%	39.2%	43.3%
E 理系学部の大学生は約3～4割が大学院に進学、6年制の薬学部、大学卒業後さらに2～3年の法科大学院など、大学以降の在学期間は4年標準ではなくなり、6～7年へと長期化が進んでいる	38.6%	49.7%	57.8%	49.1%	40.5%	29.5%	29.2%	34.0%	41.2%	39.4%
F 財務省の国立大学・収入構造改革の方針にそって、文部科学省が出した試算では、2031年（15年後）には国立大学の授業料は現在より約40万円近く値上げされ、年間約93万円になると言われている	75.4%	89.0%	91.0%	85.9%	86.8%	82.7%	84.0%	84.9%	87.7%	78.0%

（※）［青色］：項目の中で最も割合が高かった年代、［水色］：項目の中で２番目に割合が高かった年代

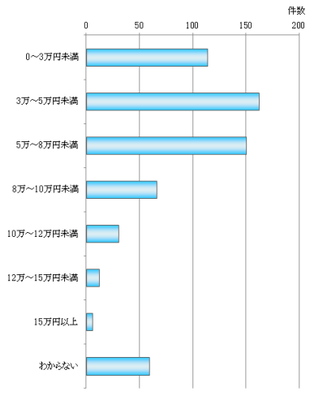
３．親が借りていた奨学金と比べ、子どもの奨学金は借りている額が大きく増加

「（本人が奨学金を）利用していた」と答えた回答者に月々の貸与額をきいたところ、「3 万円未満」が最も多く 40%となった。一方、「子どもが奨学金を利用している（いた）」と答えた回答者に、子どもの月々の貸与額を聞いたところ、「3～5 万円未満」が最も多く、「3～5 万円未満」「5～8 万円未満」を合わせると半数を超えた。

Ｑ１３：毎月の貸与額（回答者本人）



Ｑ２０：毎月の貸与額（回答者の子ども）



４．回答者の 54%は自由記入欄に意見を記載。きわめて高い関心が寄せられている

回答者 2,675 人のうち、1,433 人（回答者の 54%）が自由記入欄に意見を記載。全国組合員意識調査では自由記入欄への記入が約 3 割であることと比較し、教育費や奨学金制度に関しては高い関心が寄せられていると言える。

【特徴的な声】

- 現在、夫婦で合わせて 800 万近くの奨学金の返済があり、月々5 万円の返済はなかなか苦しいものを感じている。しかし、大学に行かねば就職口もなかった世代であり必要経費だったと思う（25～29 歳）
- 大学の授業料が、昔に比べてかなり高くなっていると感じる。親の収入で、子供の進路が狭くならないようにと、プレッシャーを感じている（35～39 歳）
- 諸外国のようにしっかりと勉強しないと、卒業できないような制度なら給付型の奨学金もよいと思う。税金を使うのなら、有意義に使ってほしい（40～44 歳）
- 給付が無理なら、せめて無利子の奨学金を希望者には皆貸してほしい（50～54 歳）
- 借りたお金は返済しなければならないと思う。返済しないと次に借りる人の分がなくなるから。ただ、返済できる収入を得られるかが問題（60～64 歳）
- 高校では授業料以外に思いのほかかかり、大学でも入試費用から授業料など高すぎる（55～59 歳）
- 奨学金は全て無利子化返済の必要のないものにすべき（30～34 歳）